（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）

十月廿四日　夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢郵税五錢
發行所常磐毎日新聞社　電話八三〇番
發行人兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
日曜祭日の翌日休刊
印刷所常磐毎日印刷株式會社

粗悪化する兒童物
父兄は撰擇すべし
教育者談

この頃の兒童雜誌についてみると、これも財界不況の影響から止むを得ぬ現象かも知れないが、値下げを行ふと同時に、甚だしく紙質印刷等を粗悪にしたものを見受ける、止むを得ないといへばそれ迄であるが、我々としては甚だ遺憾に感ずるところである

◇

この現象は、もとより購買力の減退から來てゐるのであるが、しかし他面においては父兄が兒童繪本等に對して常に愼重な教育的鑑識眼を以て選擇してやるの親切を持たぬ事もまたあづかつて力あるものではないかと思ふ

◇

教育的にも藝術的にもすぐれたものとみられるものが、いはゆる惡貨が良貨を驅逐する原則の通りに成立つてゆかないといふのは、要するに未だこの點に對する父兄の理解が行とどいてゐないからではないかと思ふ

◇

第一にいけない事は、これ等のものゝ選擇を兒童自身に任せる事そのことではあるまいか、兒童の識鑑眼は單にその場における比較であり、刺戟の强弱であり從つて一寸みた目が奇麗でさへあればそれでよいのであつて、兒童雜誌がやゝともすると惡どい色彩に流れ易いのは實にこの故なのである。そしてまたこれが如何に兒童の視神經に惡影響を及ぼすものであるかは贅言を要しないであらう

◇

兒童物の粗悪化は實に兒童にとつて禍ひである、かゝる際においては特に選擇の場合に父兄の愼重なる注意が必要であると思ふ

綴り方
度胸ためし

平第一校尋五　片寄藤次

この間の事。父が泊り番で母が使ひに行つた。僕も弟の文夫もそつること起きて、ねまきの中にまくらを入れて表へ出た。ちようど敏雄さん等が度胸ためしをやつて居たので僕等は「敏雄でね、メガネの父ちやん。僕ことまぜろ。メガネの父ちやん。」「おゝまぜつから早く來い」「うんそうがほんとかうそかなぐらめいなよ、メガネなよ」文夫が横から生意氣な口を出す。武夫が「よし、おれの度胸をためしてみろい」と言つた。「やろつこゝんとこ一廻りして來い」と言つた。「少々こわいね參つた」と武夫が頭をかき〳〵言つた。その時敏雄さんが僕の方を向いて「次ちやんとひでちやん二人で行つて來な」と大きい人は大人らしい太い聲で言つた。「よし次ちやんいんべ」「うーんよしいんべな」とは言つたが身体は休みなしにブル〳〵とふるへる。歩き出した。一歩一歩に足もとを見ながら。ふと足先でちら〳〵光る物がある。何かた拾ふと五十錢銀くわ。「どうだい度胸のある者には、神様はめぐんで下さるえへん」とふるい聲。廻り角まで來ると、何だかおそろしいかんじがしたが「度胸一つで何でもやれる」と考へて、せい一ぱいの聲で唱歌を歌ひながら歩き出した。「こゝは御國の何百里はなれて遠きまんしうの赤い夕日に照らされて……」又、廻り角だこんどは先とちがつて正面に家がある。元氣な光が表にさして居る。とたんに　前の方がガサ〳〵〳〵と何をか動かす樣子。「ひやあ」とひめいをあげてひでちやんはかけ出した。とたんぴゆつとつめたい風が僕のほゝをかすめた。ブルッと身ぶるいしたと、次のしゆん間に、赤い物がぴゆつと飛ぶ。ガサガサブルブルふしぎな物音、僕は「何このやろつ太いやろだつ」と、何かの動く所へ一足飛び「あれや度胸のいゝやろだなあほんとに」とほめられた。次の番の者は、と中でやめて歸つて來た。「けつきよく僕が一番よ」といばつて見せた

愈々明日

航空思想普及
第二回　郡下模型飛行機競技大會開催
一、開始…午前九時より煙火合圖
一、會場…磐中グランド
主催　いづみや玩具店　三幸堂樂器店　常磐毎日新聞社
後援　東京ダイヤモンド模型飛行機研究會

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町
電一七〇

冬服御揃ひ
紺色柄物……三ツ揃……拾貳圓
最新柄スコッチ……三ツ揃……拾三圓五十錢
最上紺黑サージ……三ツ揃……拾六圓五十錢
高級品ウーステッド……三ツ揃……拾九圓
平町　正札堂洋服店　電四三六

平町新川端（釜屋新宅向）
內科一般
醫學博士　難波睦
電話五〇二一番

磐城名産
鰹節と鹽から
魚屋
最優最大日本生命平代理店
志賀盛榮
平四丁目　電二一三番

松島漁業組合
カキ貝御料理宣傳賣出し
カキフライ　金廿五錢
スカキ　仝
カキライス　仝
カキなべ　金四十錢
十月十七日ヨリ
御料理仕出し　一の井
電話一六七番

△配達敏速▽

漸次大資本化する各濱漁業家の經營

倒産防止に株式組織

漁獲高も逐年增加す

石城郡各濱漁業家は最近財界の不況に祟られ意氣消沈の形であるが本年前半期の漁獲高をみると

最高は 小名濱港の二百六十一萬八千三百二十九貫、この金額四十九萬二千六十八圓を初め

江名港	二〇一、九〇〇圓
中作港	一七三、八二一圓
豐間港	一四四、〇〇〇圓
四倉港	一四〇、四六六圓
計	一、一五二、二六五圓

といふ巨額に達し毎年漸次增獲の傾向にあるが近時各漁業家においては漸やく漁業の資本主義的經營法に轉化して大型船建造に着手する者が續出し

將來は 株式組織による大資本經營に移るべく當業者間に專ら研究されてゐるが今後財界の安定と共に漸次この運動が濃厚になるものとみられ現在大型船三十二隻を有する他に各濱における所有船は左の如く

港名	機船	和船
小名濱	七二	六三
中之作	三〇	一五
豐間	一五	三九
四倉	五四	八一

となつており之らが現在遠洋出漁に從事してゐるが大型船の機先を制するには

如何に 技術の優秀を以てしても困難であるので今後漁業家は擧つて大型船建造に着手するであらうと

求人開拓デー

文書にポスター

平紹介所で廿六日から

來る廿六日から三日間は職業紹介法發布以來十周年記念日に當るので全國一齊に紹介事業の普及宣傳と紹介所利用促進を鳴物入りで大々的に宣傳するべく去る七日開催の縣下職業紹介所長會議で決定したが平町職業紹介所では當日石城郡下各驛湯屋理髮店自動車發着所銀行會社等へポスター を配布する外各官廳町村役場及銀行會社へは文書を以つて求人依頼を通知する筈でまづ今廿四日町内各小學兒童を以て銀行會社商店へ求人表を配附し明後廿六日は役場吏員各區長、在鄕軍人、青年團共濟會員等の總動員のもとに求人開拓デーと染拔いた白襷隊を組織し午前八時平職業紹介所を出發各隊を

十數班に 分割し全町の商店會社等凡そ求人を要する場所を全部訪問するとの事で町役場員及び紹介所員は大いに力瘤を入れて居る

馬の健康診斷

石城產馬組合ではそろ〳〵農家の農繁期に入るので農家で使用する蕃殖牝馬の健康を診斷すべく協議中であつたが左の日定で開始

△十一月四、五、六日川前村△十日磐崎、渡邊兩村△十一、十二、十三日上遠野

秋十月

日曜なるかな

見たり食つたり

すべて競技時代

溪谷の秋――蜓々五里余の夏井川沿岸、山姿樹相はやうやく色づきはじめたといふ愉快な楓信に街の人々は樂しい週末旅行の一日を紅葉狩へゆく、然しあすはまだ早い、

「なぜだい？」

「だつて汽車ポッポがそういつてたよ」

×

「おや、飛行機でもみにゆかうか」

「つまらねえ、子供だましみたいな……」

「ところが、あれで仲々近代的なんだよ」

「あれでッてどれでだ」

「みなんしよ、赤トンボみたいに、ブーンと、かう飛んで……」

「あいてッ、痛いよ」

「兎に角、ついてきな」

×

こゝは石川亭の二階――

「なるほどねえ」

「ナニヲ感心してるだ」

「飛行機よりも この方が飛ぶぞ、君の中のエンヂン、かうも完全無欠とは知

「なるほどねえ」

「ナニヲ感心してるだ」

「飛行機よりも この方が飛ぶぞ、君の中のエンヂン、かうも完全無欠とは知

△十四日より十七日迄入遠野村

簡保金

十萬圓借入

上水道工費に

交付促進陳情

豫ねて平町上水道擴張工事經費として內務省に申請中であつた簡易保險金十萬圓借入方は今月上旬漸やく交付の內指令に接したので目下財源難に苦慮してゐる伏見町長も一先づ安堵した形であつたが同工費は先に一般會計から三萬七千圓繰入れ更に農工、常磐及其他の銀行から四萬圓の一時借入れで急場を凌いでゐる爲め今回の內指令に接すると共に一時も早く交付されたき旨を目下全國水道會議に出席中の山下水道課長をして陳情せしむる所があつた

繭賣上高は

五十萬圓

例年より一割增

石城郡下養蠶家は現在六千二百戸に上りその掃立枚數は春蠶より晩秋まで合計三萬一千枚でその收繭量廿一貫賣上代金實に五十六萬圓に達してゐるので農作物の價格低落し青息吐息の農家にとつては異數の收入であるが繭質の良好と各共同出荷組合の努力をまつて値段は他地方に比し高値を以て取引されたゝめ總賣上高にあつては例年より約一割增となつてゐる

石城出身滿洲駐屯兵

（二）

石城郡出身兵卒續報

永戸合津登　鹿島坂本島太郎　渡邊佐竹章　植田鈴木一美　夏井鈴木春雄　渡邊鈴木吉雄　豐間志賀豐晴　內鄕市川正義　勿來稻村倉雄　神谷西山政司　入遠野岡本今朝治　赤井金成三郎　錦高木久入遠野櫛田都進　飯野山崎一好　夏井青木正夫　內鄕齊藤久工門　內鄕鈴木常松　四倉鈴木吉三郎　草野芳賀貞義　小名濱小野金治郎　川部川面喜八郎　平窪永井良一　玉川甚一　三阪永山常重　大浦古市久太郎　好間野崎清　平佐藤武　神谷佐藤峯義　赤井平澤定男　山田蛭田利勝　內鄕遠藤正直　植田猪狩誠二　好間戸納錦平　入遠野野崎稻吉　山田安島喜一　四倉町松本晴男　勿來小松正　植田古和口昇　小名濱小松主稅　好間木村石三　永戸水野勇輔　內鄕鈴木正吾　上小川國井次安　上遠野松崎幸清　渡部鈴木定雄（終り）

往來

△小泉巳代喜氏　廿四日午前十一時十一分來平

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

◇うなぎ料理◇
◇いよいよ鰻のシーズン……
◇御用命はゼヒ江戸川へ――
平館前通り
鰻料理專門　江戸川
（電話六七七番）

產科・婦人科
井坂醫院
平町田町
電話五五九番

近代科學が生んだ
1931年のペット
あす愈々模型機大會
參加ファン百五十名

秋空にひるがへる本社旗をかすめて飛び去り飛び來る近代科學が生んだペット、模型機の朗かな唸りを聽け！その小さなプロペラから捲きおこる一九三一年的な飛行狂時代的な興奮はいよ／＼明廿五日郊外高月臺に開催する本社後援の第二回郡下模型飛行機競技大會に爆發しようとしてゐる、空へ、空へ伸びゆく詩情に誘はれてこれに參加するファンは百五十に達しこの外に番外機として空の妙技を發揮する主催側の模範飛行もあり百五十の優秀機がずらりと並ぶ盛觀は高月臺初めての新鮮な近代風景で大人も子供も、男も女も、あらゆる階級を網羅して愉快な競技が行はれるものと一般ファンの待望裡にあすの大會は開かれる

空巣覗ひ捕はる
生活苦で遂に惡心
余罪目下取調べ中

石城郡內郷村大字宮字金坂居住東京市外上尾久町生れ西田忠雄（二五）は最近失職して本籍地東京へ引上んとしたが生活苦の爲旅費すら都合出來ぬ爲惡心を起し去月卅日同村字宮瀧川松治方を訪ねた際同家では不在で有つたのを奇貨として忍入り奥座敷の箪笥から瀧川所有の金側腕時計衣類等時價七十圓餘を窃取せるを手初めに不在中の家を襲つては數件の空巣覗をした事平署に探知され昨日自宅にて逮捕目下餘罪取調中である

湯本溫泉クラブ
撞球披露競技會

湯本町溫泉クラブでは明廿五日午後一時から同クラブ內にて撞球披露大會を開く筈であるが會費は夕食付五十錢ゲームは一人撞三掛法であると

娘を襲つて
腕時計强奪
自轉車賊の
余罪續出す

昨報稀代の自轉車窃取犯人茨城縣筑波郡吉沼村字大砂生れ大工職中山安太郎（二六）の余罪は目下平署にて取調中であるが同人は自轉車窃取以外にも平町にて數件の窃盗をなした事判明同人は本年八月廿九日午前一時頃平町柳町松田ヨシ（十八）が舊盆十六日の鎌田遊廓盆踊を見物しての歸途岡田牛乳店附近にて襲ひかゝりヨシの腕時計を强奪逃走したもので常に郡內及び各地方にとび廻つて居た爲め今回迄逮捕に至らなかつたもので人を喰つた遺り口には係官も驚いて居る

夕暗の田代原を通行中
女、怪漢に襲はる
現金强奪の上狼藉の極み
平署總動員で犯人嚴探中

石城郡赤井村大字南赤井農細屋久市妻タケ（三七）假名が廿二日午後五時半頃隣村好間村親戚へ會葬の歸途村境にある田代原附近を通行中突然暗闇から三十才前後洋服着の怪漢が襲ひかゝり矢庭にタケをねじふせて懷中に手を押入れ現金七圓五十錢在中の財布を强奪した上暴行を働かんとしたのでタケは大聲で救助を求めたが同附近は人家遠く人通りも無いので怪漢は狼藉の限りを盡し逃走した、訴へに接して平署では直ちに署員が現場に急行し非常線を張つて犯人逮捕に努めたが未だ捕縛に至らず目下全署をあげて行衛嚴探中

磐崎青年講演會

石城郡磐崎村青年團では廿五日午後一時から同村小學校講堂に於いて村民の思想善導を計る爲め講師に小平三四郎氏を招聘し講演會を開催すると

メタル賞
第一校兒童

昨廿三日午前八時から開かれた平第一小學校秋季運動會においてメタル受賞兒童は左の二十名である

（尋二）馬目久二雄　若松壽彦　新妻唯雄（尋三）馬目智夫　渡邊正之　玉田定勝　白土健（尋四）佐藤喜一　鈴木敏夫　鈴木保光（尋五）綠川浩行　吉田伴四郎　小林正久（尋六）中澤啓一　井上朗

明日のラヂオ
廿五日
仙台放送局

今晩の部

▼後六、〇〇一、童話「清坊と三吉」豊島しづ子二、童謡（齊唱）千種鶯啼會員三、獨唱　藤原光一郎
▼後六、三〇英語講座「中等科」第三講の五　勝侯詮吉郎
▼後七、三〇特別講座「秋の天体觀測」（三）山本一清
▼後八、〇〇ピアノトリオ
▼後八、四〇箏曲「須磨の嵐」箏佐々木松波　同太田波穗　外高木正行（高一）猪狩五郎　齋藤武雄（高二）齊藤昇　渡邊健治
▼後九、〇〇連續浪花節「畔倉重四郎」第三席（終）木村重友
▼後九、四〇時報　全國ニュース　氣象通報　番組豫告　生繭相場

明日の部

▼前九、一〇榮養料理「秋を味ふ」
▼前九、三〇獨唱と管絃樂「秋の夜」田中君子　行進曲「海の彼方へ」他三曲ミチルオーケストラ
▼前一〇、〇〇修養講座「鐵眼禪師の努力主義」境野黃洋
▼前一一、〇〇講演「全國の初等教育者に望む」下川兵次郎
▼後〇、四〇落語「藥違ひ桂圓花
▼後一、一〇新絃樂「吹くや松風」他高峰バンド
▼後一、五〇運動競技野球リーグ戰
▼後二、二五三曲「松上の鶴」「末の契」
▼後二、五五清元「喜撰法師」清元志壽太夫他
▼後六、〇〇兒童劇「舌切雀第七夫牟田小學校兒童
▼後六、三〇ラヂオ講座「受信機を構成する部分品の役目」安藤照雄
▼後七、三〇講演「空中國防に就て」長岡外史
▼後八、〇〇新內「關取千兩幟」富士松春太夫
▼後八、三〇義太夫「蝶花形名歌島臺」竹本津太夫

天氣豫報

今晩も明日も南東の風曇り

非常線
平署總動員で犯人嚴探中

ふらちな無免許
惡周旋屋一掃さる
其筋で徹底的に處罰

昨今の不景氣を惡用し巧みに其筋の眼を逃れては無免許周旋を働き紹介料の外莫大な手數料を取つてゐるので其筋では之ら無免許周旋屋を一掃すべく愈々數日前より一齊に此等惡周旋業者を檢擧取調を開始したがこれらは主に炭鑛を根據とする者多く石城郡湯本町からは渡邊一郎（三七）馬上岩太郎（四二）高橋隆勇（三五）、蔦カノ（四二）米川茂（四〇）の五名內郷よりは齊藤吉五郎（四〇）宍戸勇喜（四二）松崎金太郎（三八）酒井盛也（四〇）根本達兵衛（三〇）鎌倉彦次郎（三八）、佐藤淺吉（四〇）佐川德之助（五一）の八名合計十三名を平署へ連行取調中で彼等は大半無免許の上手金其他の横領を常習とし常に各家庭を廻つては魔手を延して居たもので同署では今後も徹底的に、惡周旋業者をドシ／＼處罰する筈であると

平裁判だより

◇去る八月中湯本町にて窃盗罪を犯した住所不定勝又春治（三一）は先月三日懲役一年六ヶ月言渡さる
◇同月中四倉町にて窃盗犯同町菊池隆一（三二）は同日二年の言渡し
◇七、八月中四倉を中心として各所を荒し廻つた窃盗犯住所不定國井三郎（二八）は同月六日懲役二年六ヶ月言渡さる
◇同月中常磐線富岡草野間にて無錢飲食詐欺犯住所不定佐久間吉之助（五一）は同月十日懲役一年を言渡さる
◇去る八月中小川村某呉服店に忍入つた住所不定白鳥源太郎（二三）は同十九日一年六ヶ月の懲役言渡し
◇下小川村方面にて數次窃盗を重ねた住所不定佐藤角三郎（四四）は同日二年六ヶ月言渡し
◇石城郡江名町吉田紋三郎（四二）は汽船底曳網漁業法違反で今月二十三日罰金三十圓を言渡さる

小説

七色虹

（六十八）

渡邊默禪作
布施平八郎畫

【禁轉載】

櫻散る夜（12）

源之助はヨフラマの叫びを聞きながらそれを顧みる暇がなかつた、廊下先で急いで上衣に手を廻して走るやうに二階を降りかけた時に下からボイドといふ米國人の肥つたあまさん（召使の女）がよちよちと駈あがつて來た。この女は此家に無くてならぬ曳子といつたやうなもので、抱女の監督をしたり、お客の始末をしたり、主人につぐ權力を持つてゐるのであつた。

「あなた、何處へ行きますか。」

帽子と外套とを抱へたまゝ、慌だしく出て去かうとする源之助の様子をあまさんがぢろりと見てとつて、行手に立塞がるやうにしながら聲をかけた。

『歸るんだ。歸るんだ。』

源之助は悪い奴に發見つたと思ひながら、いきなり突きのけて階梯を下りようとした、あまさんは大きな体を立直してこの手をぎゆつと掴んだ。

『いけません、いけません』

『何故いけない』

『主人の命令です、あなたから勘定を戴かないうちは歸すなといゝつかつてゐます、あなたにはまだ千弗以上の貸があります、お歸りになるならそれを拂つてからにして下さい。』

『やかましいッ、勘定を踏倒すやうな俺ぢやないんだ見そこなつちやいけない金が欲しけりや明日店に取に來い、何時でも拂つてやる。』

『然うはまゐりません』

『何故然うはまゐらない、馬鹿を言へ勘定は勘定、俺の体は俺の体だ、金のために客の体を拘束する權利は此家の主人にはない筈だ、いゝかげんに勝手なことを申すと承知しないぞ、なんでも宜いから俺は歸るんだそこ退け。このあま奴。』

『さういふ貴郎にも私だちに大きな損害を背負込ませて、勝手に出て行く權利はないでせう、貴君が逃げれば金も一所に逃げて了ひます。』

『莫迦なことをいふないッヤンキー婆奴、なんでもいゝから勝手にしやがれ、今俺はびた一毛も金なんか持つては居ない』

塙りかねて矢庭にぽかりと顔をなぐりつけた。

『おゝ痛、打つたね、小僧！、さ、打つなら成るだけ澤山打つておくれ、私の体にはね、お氣の毒だが、五萬弗の傷害保険がついてゐるわよ、疵でもつけたら最期、會社の辯護士にさういつてひどい目に遇はせてやるから然う思へな。このなんだうすのろの小僧奴、さあもつとうんと打つてをくれ、打つてをくれ。』

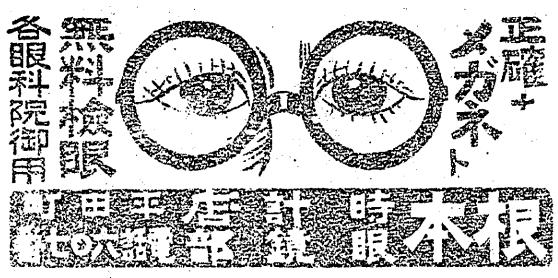
『何をッ。』

ぐん〳〵押さうとしたがあまさんに突出されてひよろ〳〵とだぢろいだ、其處へ消魂ましい警報機の音に目を醒ましたボーイや夜番の支配人代理やらが大急ぎでがや〳〵と駈上つて來た同時にヨフラマは室を飛出して大きな聲で怒鳴つた。

『その男は泥棒よ、泥棒よ』

あまさんも夫に和して叫んだ。

『こいつは勘定を踏倒して夜逃げをするんだ、捉まへてをくれ、捉まへておくれそうして今この小僧奴が私の顔をいやてほど打つたよあゝ痛い、痛い、この小僧奴……。』



新趣に輝き實價を誇る
各種運動服具裝
大廉賣
平・田町
大塚運動具店
電七七番

縣教育會石城部會
圖畫科講習會
時日　十月廿八日（水）同廿九日（木）貳日間　午前九時より午后三時まで
會場　平第一尋常高等小學校
講師　文部省囑託　石野隆氏
會費　不要
展覽會陳列目錄
一、現代大衆作品
野尻湖（石川寅治先生）
子供（石井柏亭先生）
南イタリーの風景（石野隆先生）
殘雪夕照（大野隆德先生）
下落合風景（佐藤平太郎先生）
菖蒲（中川紀元先生）
七面鳥（鶴田吾郎先生）
薔薇（南薫造先生）
讀書（田邊至先生）
人形の首（鈴木信太郎先生）
日本一の大鳥居（廉子木孟郎先生）
庭（春日部たすく先生）
靜物（板倉贊治先生）
其他——三十点
二、世界十三ヶ國代表兒童畫　二〇〇点
三、全國優秀兒童畫　二〇〇点

時計
召すなら
タイラの
精幸堂
常に信用と責任ある良品廉價
平町搔槌小路キクチ自動車店向

度量衡、計量器、吸入
用酸素、酸素吸入器
關
內藥局
電話四〇番

毛糸と編物用具…
三一〇二毛糸新色全部入荷致しました
相變らず御用命の程……
平田町
ハシモトヤ糸店